



やる気のある人を支援するきっかけに



なかむら かずあき
中村 一明 氏
(厚岸町商工会会長)

商工会の業務は、会員企業さんへの経営支援などのバックアップが主要な業務であります。しかし近年、商工会員数の減少、どこの地域もそうですが、商工業の9割以上が今までは町内消費でありました。基幹産業の水産業が順調だった頃は、何とか町内で商売ができていました。しかし、200海里問題以降、水産業

酪農製品のさらなるブランド化を



とくだ ぜんいち
徳田 善一 氏
(釧路太田農業協同組合代表理事組合長)

厚岸といえば『海』の印象が非常に強いですが、われわれは山のほうで酪農をやっております。現在の課題としては、後継者問題や人手不足が深刻で、どんどん離農していくため、今は新規就農を取り入れたり、外国人労働者を40人くらい地域で雇っている状況です。われわれは、海と協力しながら、海が

の衰退とともに町内の需要も減り、消費も減ってきています。また、経営者の高齢化、後継者不足なども深刻です。起業などに手を挙げる若い人も少ないのが現状です。そして、どこでお店をやるのかということになると、厚岸は店舗が兼住宅が多いため、なかなか空き店舗がでてこない。われわれもチャレンジできる体制がなかなかとれない、資源の有効利用、わかりやすい観光情報の発信がなかなかできていない、意識改革ができていないというのが、商工会の課題かなと思っています。商工会として、国定公園化に期待することは、すごく知名度が上がり、来町者が増え、消費がアップする、ということ

元気になるないと町も元気にならないと言わせてもらっています。『厚岸』という地名をもっとPRしていくためには、国定公園化をプラスとして考えていかなければと思っています。釧路町・浜中町・厚岸町が全国的に有名なことで、この地域に来てくれる人が増え、この中で人材確保や新規就農、このまちを愛してくれる人がきてくれたらいいなと期待しています。私のところの牛乳の大半は大手乳業さんで使用されていて、生クリームやバター、ハーゲンダッツのアイスクリーム、スターバックスコーヒーのミルクとして使われています。また、地元の人から搾ったままの牛乳

が一番の理想です。厚岸商工会では、2019年に早急に4つの目標を作りました。1つ目は、若い人達が魅力を感じてチャレンジできる支援体制の充実を図ること。2つ目は、コンキリエと漁協直売店が今、町内外から一番集客を集めている施設であり、そこからシャワー効果による町内店舗への取り込みをすること。3つ目は観光客にわかりやすい情報の提供。4つ目は成功事例を紹介して、町内業者、町内生産者、地域住民皆さんのやる気を引き出していくことです。商工会として、勉強をしていながら、情報発信をしていきたいと考えています。

が飲みたいということと『あつけし極みるく65』という牛乳を生産・販売しています。この極みるくは、低温殺菌のため長持ちしないですが、ノンホモジナイズ製法で、何日かたつと脂肪分が上にあがってきて、まぜるとクリーミーな牛乳となります。この極みるくを漁協さんの海産物とコラボした新しい製品、これに厚岸蒸溜所さんの厚岸ウイスキーともコラボしながら、新たな製品を作っていけたらと思っています。そして、地域貢献として厚岸ウイスキー用の大麦栽培にも取り組んでいきたい。国定公園化をきっかけに、農業・酪農製品のさらなるブランド化を考えていきたいなと思っています。

パネルディスカッション『国定公園化を生かす地域戦略～農水産業・観光産業の可能性を拓く』

漁業の将来に向けて明るい材料になれば



かわさき かずよし
川崎 一好 氏
(厚岸漁業協同組合代表理事組合長)

私もが漁業を営むここ何十年間、道立自然公園の中で漁業の営みをさせていただいてきた。200億円の水揚げがあった厚岸港でありましたが、現在は50億円を切るくらいの水揚げとなっており、沖合漁業が非常に低迷した時期にさしかかっています。

そんな時、私たち、浜は何を考えたかという「厚岸の魚はおいしい」「厚岸の貝はおいしい」ということを何としても全国に知ってもらおう、そして食べ比べてもらおう、そんなことからはじめようじゃないかということになりました。それに加えて、厚岸町民の皆さんが本当に厚岸の魚介類を楽しんで食べてもらおう、そして買い求めやすくする、そんな試みをしてようじゃないかということで、ここ何十年間その取り組みをさせてもらっています。

昭和58年に厚岸の牡蠣が全滅してしまっただけで、この原因はいろいろ言われていますが、確固たる理由はわかっていません。しかしながら、環境の変化があったのではないかと誰もが、また科学的にもそうであろうと言われています。

また、平成23年には、東北の大震災であります。厚岸の養殖施設は全部流されてしまい、また昔の牡蠣礁があまりに生まれ変わって、やっとこれから水揚げができるといった時に、何もかもあの津波で流されてしまった。

浜の努力があつて、今の生産数量があるのですが、この国定公園化で一番心配していたことは、われわれが生産をする海に規制がかかってしまうということです。

したがって、われわれ漁業協同組合もこの国定公園化に向けては、なかなかやらやれというような雰囲気ではなかったことも事実です。しかしながら、北海道、厚岸町は、中心的にこのわれわれが使っている区域を普通地域にすることによって、漁業者の不安を取り除いていただいた。

国定公園化に向けて、自分の住む町を誇りに思う、そして自信をもって生きていく、そういうまちを作り上げていくことが大事なことで、そう思うと思います。

漁業はなかなか辛い仕事でありますし、またきつい仕事でもあります。魚を一匹とることが、牡蠣を1個育てることがどんなに楽しいことなのか、自分達の生きるやりかたを理解してもらおうことが、今後も漁業をやっていくような、漁業協同組合を作っていきたい。

そういう意味で、この国定公園化が漁業の将来に向けて、明るい材料の一つになればというふうに思っています。

難解地名当てクイズ

道東地域には、読むのが難しい地名がたくさんあり、特に釧路町・厚岸町・浜中町のシーサイドラインには、「なぜこんな読み方なのか…」と思ってしまうような地名が数多く存在します。次の地名、あなたはいくつ正解できますか?(答えは26ページ)

くしろ町	① 賤夫向	② 入境学	③ 老若舞	④ 去来牛	⑤ 冬窓床
あつけし町	⑥ 末広	⑦ 敏内	⑧ 登喜岱	⑨ 神岩	⑩ 別寒辺牛
はまなか町	⑪ 湯沸	⑫ 羨古丹	⑬ 嶮暮帰	⑭ 後静	⑮ 散布